

「幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちて行った。神の恵みがある上にあつた。」ルカ2章40節

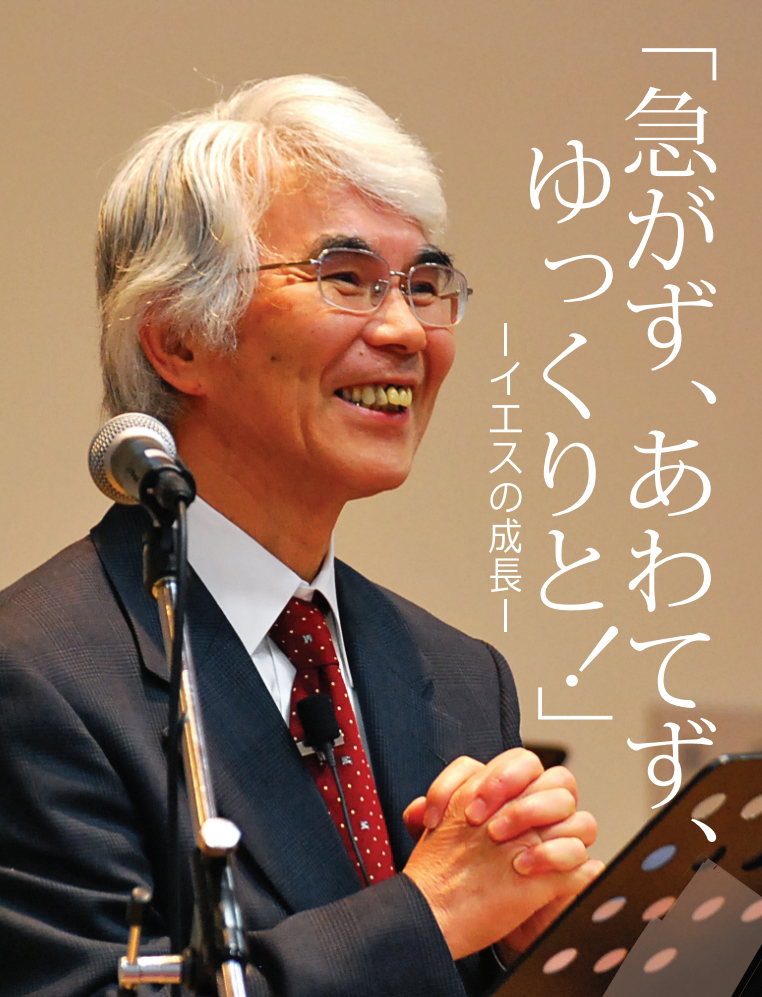
「急がず、あわてず、ゆっくりと」

―イエスの成長―

米村英二師

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン 聖書学院 2010.9-10月号 No.139



「急がず、あわてず、
ゆっくりと！」
—イエスの成長—

大津キリスト教会牧師・学院顧問

米村 英二師

幼子は成長し、
強くなり、
知恵に満ちて行った。
神の恵みはその上にあった。

(ルカ 2:40)

1. イエス様も成長された

■「幼子は成長し」とあります。イエスが成長なさったとは、何を意味するのでしょうか。初めから完成された人としてこの地上にいられたのではなかったということです。イエスは神であったにもかかわらず、「成長と発達」という命の法則に服しておられたのです。両親の助けがなければ、その生存さえ危ぶまれる無力な時期がイエスにあったという事実は、私たちに驚かせます。しかし人となられた以上、イエスもまた弱さから発しななければなりません。そして、強くなり、知恵に満ちてゆかれたのです。彼の従順、柔和、自己犠

②

牲、人生についての深い洞察と決断、これらはみな初めから彼に備わっていたものではなく、日々の成長によって得られたものでした。

■聖書は言っています。「彼は多くの苦しみを通して、従順を学ばれた」と。苦勞せず、何でも上手にやってきた人からは、われわれはたいして多くを学べません。あまりに完成された人からは、よし自分もやってみようというような靈感を受けることがないのです。むしろ、そういう人を見ると、われわれは落胆します。やっぱり自分はだめだ。とうていあの人のようにはなれない、そう思って自分がみじめになるのです。人はみな、いくらか弱いところのある人、欠点のある人、それにもかかわらず、あきらめず、前向きに生きようとしている人からのほうが、より大きな励ましを受けるのではないのでしょうか。私自身、牧師でありながら、日々の生活はというと、今なお失敗の連続です。怒ったり、不平を言ったり、不注意な言葉で人を傷つけたりして、家族や信徒の方にも迷惑をかけることが多いのです。そんな自分が情けなく思われ、あるとき、みんなの前で、「ほんとうに申しわけありませんね」と言ったら、ある方が、「そういう米村さんのほうが親しみを感じます。実のところ、米村さんのりっぱな証より、失敗談のほうが私の心には素直に入ってきて、慰められるのです」と反対に励ましてくださいました。多くの人が求めているのは、賢い助言より、共感なのかもしれません。自分だけではない。あの人も、この人も、自分と同じような弱さを抱えながら、それでも一所懸命生きている。そう思うと慰められ、勇気づけられるのでしょうか。

2. それは自然な成長であった

■人間を救うのに、天使ではなく、人の子として誕生されたイエスを、神が用いられたのはなぜでしょうか。それは、われわれと同じ血肉をもってこの世に来て、さまざまな試練と戦い、悩み、苦しみながら、それらの戦いに勝利し、成長してゆかれたイエスの生き様から、われわれが多くの慰めと励ましを受けるためであったと言えるでしょう。ゲッセマネの園で、「どうか、この杯をわたしから取りのけてください」と祈られたイエスの祈りは、私たちの心を慰めます。イエスでさえ、大きな試練を前にして、恐ろしさのあまりたじろがれたのです。完全な人は人びとを引きつけません。もしイエスが単なる模範的な人間にすぎなかったなら、その生涯が、二千年たった今も、人びと



③

の心に新鮮な感動を与え、新しい生命を吹き込むということはなかったでしょう。彼には喜び時があり、悲しむ時があり、また怒る時がありました。彼の魂は私たちと同じように人生の多くの戦いを通して、強められ、高められ、大きくされていったのです。われわれはみな、イエスの、そのような姿を見て、自分も同じ道をたどり、そして成長したいと願うのではないのでしょうか。

3. それは時間のかかる成長であった

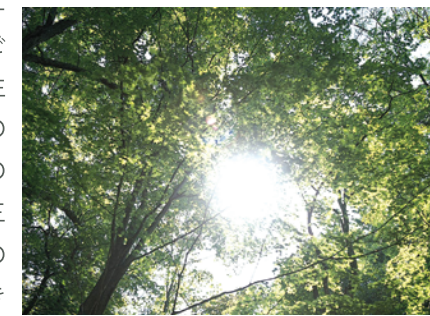
■イエスはどのように成長してゆかれたのでしょうか。その様子を知りたいと思って福音書を開いても、イエスの誕生の記事はあっても、その後の成長についての記事はそうたくさんはありません。あるのは以下のような記事です。「幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちて行った。神の恵みはその上にあった」(ルカ 2:40) 今ひとつは、少年時代に両親とともにエルサレムに上られたときのもので、こう書かれています。「イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人に愛された」(ルカ 2:25) イエスの幼少時代の記事がこれほど少ないのは、公の伝道生涯に入るまでの30年間のイエスの生活が、割合に平凡なものであったということではないのでしょうか。偉大な人物の伝記を書く人は、将来大人物になることを予想させるような幼少時の逸話はないかと探すものです。有名な「サムエル・ジョンソン伝」の著者ボズウェルは、ジョンソンの幼児期の記憶力について、こんなことを書いています。母親が、読み方を習い始めたばかりのジョンソンに、暗記すべき課題を与えて階段を上がってゆくと、3階にたどり着くか着かないうちに、後を追ってくる息子の足音に気がついて、「どうしたの?」と聞くと、ジョンソンは、「ぼくはもう言えるよ」と答え、どう考えても二回以上は読む時間がなかったにもかかわらず、すべてを正確に暗唱したというのです。偉人伝にはこういう逸話がつきものです。しかしリンカーンの場合は、少し違っていました。彼は、自分の幼年時代の資料を求められて、こう答えました。「私の子どもの頃の生活について何かをほじくり出そうというのは、およそばかげた企てだよ。それはひとこと、『貧しい者の、短い簡素な年代記』、これが私の人生だ。これ以上のことは、だれにも何一つ見つけられはしないよ」平凡な生まれであったリンカーンは平凡であることを何より誇りに思っていたのでしょう。「神は凡人を愛される。そうでなければ、こんなに多くの凡人をつくらなかつたらう」と自ら語っている通りです。

■イエスの幼年時代も、リンカーンと同様、どちらかといえば平凡なものではなかったのでしょうか。驚嘆するような逸話

をそこに見つけることはできません。もしあつたら、記録されていたでしょう。でもそれはなかった。言い換えれば、イエスは子どものときは、背丈も知恵も、心も、子どもらしくあつたということです。彼は早熟ではありませんでした。不自然な英才教育も受けられなかった。イエスは、初めに芽、つぎに穂、そして実というように、ごく普通の順序にしたがって成長してゆかれた。こうして彼の生涯の基礎は、何ら特記すべきもののない、30年に渡る平凡な労働生活の中で築かれたのです。

■イエスが特殊でなく、普通の育ち方をなさったということは、われわれに何を教えるのでしょうか。われわれの子どもも、普通の教育でよいということです。彼らは、子どものときは、子どものようであるべきです。そして人生の最もよいものは、そのような普通で平凡な時間の流れの中で育まれるものなのです。私たちも、東京や大阪のような大都会ではなく、この大津という小さな町で子どもを育てることができたのを幸福に思っています。当時の生活は静かでした。集会に来る人も少なく、夕方になると英語塾で忙しくなりましたが、昼間は時間がある。当時、まだ、2、3歳だった長男を自転車に乗せて、よく散歩に出かけました。テレビや新聞、電話もなく、もちろん車もありません。ときどき汽車に乗って、阿蘇のふもと立野までゆき、山を眺め、また次の汽車で帰ってくる。それが家族の安上りの小旅行だったのです。子どもたちが幼稚園にゆく頃になると、今度はいっしょに図書館に通い始めました。自分の勉強もいぶんしましたが、子どもたちのために絵本もたくさん読んであげました。貧しくても平和な日々でした。結局、平凡で単調と思われたその時期が、子どもたちや私自身の人生のもっとも大切な部分をつくっていたのだと思います。

■イエスの成長はゆっくりでした。神は決して急がれる方ではありません。ところが私たちは急ぎます。なかなか待てません。子どもたちにも、できるだけ早く字を覚えさせようします。何であれ、彼らが少しでも人より早くできれば安心し、おそいと心配するのです。しかしイエスの成長には性急さはありませんでした。イエスは30歳になるまで、人に知られることのないユダヤの寒村で過ごされました。彼の生涯の大半は準備のために使われたのです。内村鑑三は、「読むべきものは聖書、学ぶべき



ものは天然、なすべきことは労働である」と言いましたが、イエスの品性もまた、豊かな自然と不断の労働生活によって、ゆっくりと時間をかけて形成されていったのではないのでしょうか。「ゆっくり」は神の方法です。自然を見ると、作物の生長はみなゆっくりです。人工的にそれを早めるならば必ず問題が出てきます。

■本もゆっくり読むべきだと主張したのは、フランスの作家、ファゲです。彼の書いた「読書術」は、かなり古い本で、今では入手が困難です。ところがある時、札幌の古書店で偶然私はそれを見つけたのです。でも値段がちよっと高かった。私は迷いました。迷った末、とうとう買わずに熊本に帰ってしまった。帰ったあとで後悔しました。それから二年たって再び札幌を訪ねた時、なんとその本は、同じ本屋の同じ棚に、そのまま売れずに残っていたのです。私は再会を喜びました。そして思った。この本は私に所有されるべく私の訪問を待っていてくれたのだと。私がためらわずその本を買ったのは言うまでもありません。ファゲの「読書術」は、多くある読書論の中でも第1級の部類にはいる古典の1つです。その第1章を開くと、有名な次のことが書かれています。「読むことを学ぶためには、まず極めてゆっくりと読まねばならぬ。そして次には極めてゆっくりと読まねばならぬ。ゆっくり読むこと、それは第一の原則であり、そして絶対にあらゆる読書に適用されるべきものである」すぐれてよい本は常にゆっくりと読むこと、書かれた速さで読むこと、これがファゲの主張でした。それは、読書だけでなく、私たちの人生の歩みについても、言えることではないでしょうか。

4.伝道の為に時間をかけ基礎を築く

■伝道も、急いではならない。ゆっくりと、しかし休まず続けなければならないと言ったのは、内村鑑三です。伝道の初期に読んで「若き伝道師に告ぐ」という彼の文章は、そのまま私の伝道方針ともなりました。それはだいたい、こんな内容です。

1. 伝道は忍耐のいる仕事です。10年以内に結果を得ようとしてはなりません。
2. 人を見ると、伝道はすぐにいやになります。だから人と交わること1時間に対して、神と交わり聖書と親しむことを9時間としましょう。
3. 聖書を研究しなさい。伝道の結果は、聖書をどれくらい深く読んでいるかに比例します。
4. 求道者として1番希望があるのは子供です。次が青年、そして大人という順序です。
5. 伝道は神のわざです。自分は神に用いられる道具にすぎないことを片時も忘れてはなりません。

6. 勉強しなさい。読書を怠ってはいけません。あらゆるところから蜜を得なさい。そして信仰を健全な労働と常識の上に築きなさい。

7. 清く生きて、聖霊に満たされなさい。

8. 時がよくても悪くても御言葉を宣べ伝えなさい。

これらの助言の中心にある思想は、伝道には基礎が大切であること、そしてしっかりした基礎を築くには時間をかけなければならないということです。「静かに（ゆっくり）行く者は健やかに行く。健やかに行く者は遠くまで行く」これは作家城山三郎のモットーでした。遠くまでゆこうと思うなら、時間をかけ、ゆっくり進まなければなりません。イエスの成長もゆっくりでした。私たちが急がず、あわてず、ゆっくりと歩み続けるなら、きっと遠くまでゆけるでしょう。■

●この講義には続きがあります。(全3時間) 授業を収録したCD・DVDを御希望の方は学院事務局までお申し込みください。
・CD~1講義/500円 ・DVD~1講義800円

CFNJ販売・刊行物

●お申し込みは/学院事務局まで



緊急のお願い!

この冬の除雪の為に学院では「除雪機」必要としています。
目標額は40万円です。ご協力をよろしくお願いたします!



■学院主催/第14回 ユースフォーザネーションズ

Youth For The Nations 2010 Report!

「深みへ漕ぎ出せ! ~ Go Deeper ~」ルカ5章4節



●ジャレッド師やアメリカのチームと共に全員集合!

各集会ではDJが音楽で場の雰囲気を盛り上げながら始まり、続けて賛美やゲーム、パフォーマンスや証があり、メッセージが語られました。

■初日の夜のメッセージでは、ジャレッド師が集った若者たちに対して、チェーンソーで木を切るパフォーマンスを見せながら、「私たちの内にもこの木のように切り倒さなければならないものがある」と、罪から解放される必要がある事を語られました。師の招

きに応じ、本当に

解放されたいと願う若者たちがそれに応え、アメリカからのチームや聖書学院生が彼らと共に祈りました。

■2日目の午前の集会では、「Purity・純潔」についてユース・パスターのジュールズ師が語られ、また同時刻にあったユース・リーダー・セミナーでも、「性についての問題」や「どう聖書の教えるように男女関係を導いていくか」等のQ&Aがあり、若い世代が異性や恋愛について多くの問題を抱え、ユースとの関係の中での教えの必要があると感じました。

また夜には、「伝道」についてジャレッド師が語られ、私たちの周りには多くのまだ神様を知らない人々がいることを改めて覚え、若者たちは涙を流しながら愛する家族、友人のために祈りました。■最終日には、「Mission Time」と題して、札幌の中心地区でDJやダンスのパフォーマンスとともにトラクトを配り、また証をし、行きかう人々に福音の種を蒔く事が出来ました。その後、近くにある教会で「Celebration」として、神様への感謝と、賛美、祈りを捧げる時間を持ち、最後にはジャレッド師がエペソ6章にある御言葉から、「私たちの戦いは肉によるものではなく霊的な戦いだ」と、YFNから帰っても、①祈り、②聖書を読み、③友達に伝えていく事で、情熱を燃やし続けていく必要を語られました。

●朝のデポーションの様子

■最後に、ジャレッド師が語られたようにYFNに集った若者たちが、この3日間を通して神様の事をさらに知り、それぞれに受けた神様の愛に伝えていくという情熱を、日常に戻っても信仰をもって一歩「深み」へと前進して行けることを願い祈り続けたいと思います。



●ジャレッド・ブライアント師



●みんなで熱く神様を賛美する



CFNJ聖書学院 卒業・修了式

7月2日(金)

■2010年度1学期の最終日、7月2日(金)午前9時より、4名の学生が学院での学びを無事終えて、卒業、並びに修了しました。式の中で学院顧問の米村師のメッセージを聞き、又、グッドアワー教会の牧師で、学院講師の西森師からの熱いお祝いの言葉を頂き、旅立つ学生も、又、送り出す在校生も熱い思いで主にお従いする信仰を新たにしました。それぞれの場に遣わされる1人1人のためにお祈りください。



「二年の学びを終えて」

札幌グッドアワー教会(札幌市)

長谷川 雄一 (2年卒業)

■振り返ると主に導かれた二年間でした。様々な出会いがあり、迷惑をかけ、そして助けられました、それらが私を大きく変えてくれました。私はキリスト教を宗教として入学しました。しかし主はそんな私に真理を見せて下さいました。私はこの学院にて人生で握りしめるべきものを頂きました。本当に二年間お世話になりました。



「最も幸せな2年間」

ICF教会(札幌市)

高須賀 麻早 (2年卒業)

■ガラテヤ6:14の御言葉を携えて入学してから2年。砕かれ削られ慰められ、今は心から、「イエス様の十字架の愛に勝る誇りは無い!」と思えます。神様の誠実さ、主にある家族の温かさ…。今までの27年の人生で、最も幸せな2年間でした。支えてくださった全ての方々に、そして誰よりも神様に感謝します!



「神様の愛に降参!」

ファミリークリスチャンセンター(茨城県)

石倉 望 (2年卒業)

■主の恵みの中、2年間の学びを終え、卒業する事ができました。私を励まし、祈り支えて下さった方々に心から感謝いたします。仲間との楽しい交わりや奉仕、興味深い講義…たくさん笑い、たくさん泣きました。どれだけ学べたのか分かりませんが、何があってもやっぱり神様の愛には敵わない、降参する事を教えられた学院生活でした。主に栄光がありますように!



「主がいつでも共にいる!」

天竜めぐみキリスト教会(静岡県)

平野 正樹 (1年修了)

■ハレルヤ!!主の御名をほめたたえます。自然豊かな北海道の地において、御言葉を集中的に学ぶ事ができたことは大きな喜びでした。学院生活、奉仕教会での活動、さまざまな方々との出会いなど、書物を読むだけでは決して得る事のできない貴重な学びをすることができました。また、生涯の信仰の友を多く得る事ができ、とても感謝しています。これから進む道は決して平坦な道ではないかもしれませんが、主がいつでも共にいることを信じ、前進していきたいと思えます。



CFNJ 2学期 講義予定表

(2010年9月6日(月)~12月3日(金))

(敬称略)

CFNJ ゲストスピーカー

●1・2年コース

	月	火	水	木	金
1 時間目 AM8:45~9:40	新約聖書概論(2)	ローマ書	聖書的人間論	詩篇	説教(1)
2 時間目 AM10:00~10:55	田中 信矢	小栗 昭夫	西森 昌二	田中 博	松原 望
3 時間目 AM11:05~12:00	山上の説教(1)	クリスチャン カウンセリング	礼拝者の資質	創世記	鍛冶川 利文
	鍛冶川 利文	三浦 雅範	岡田 好弘	ジェー・ジャンセ	



9/5日間
13~17
有賀 喜一 師
全日本リバイバルミッション代表・
リバイバル聖書神学校名誉校長
2・3時間目



10/4日間
4~7
米村 英二 師
熊本県、大津キリスト教会牧師
1・2時間目



10/3日間
18~20
手束 正昭 師
兵庫県高砂市 高砂キリスト
教会主任牧師
2・3時間目

●選択課目

午後 PM13:00~15:00	ピアノクラス 外山 妃美子	ドラムクラス 田中 満矢	実習 (必修)	ドラマ演劇 コース 鍛冶川 紀子
---------------------	------------------	-----------------	------------	------------------------

●ゲストスピーカーの授業はどなたでも無料で聴講することができます。(自由献金制) 又、通常授業も1時間~800円で受講ができます。更にこの時期、期間限定の無料体験入学も実施中です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

新入生募集中!

各学期から
入学出来ます!

●授業を通し、御言葉によりしっかりと信仰の土台を築きます。バランスよく、視野を広げ、イエスキリストにある自分の召しが確かなものとされるように聖書を広く学んでいきます。それは、「知識」が「理解」となり、更に「確信」となって豊かな実を实らすものとなっていくためです。学院での学びは必ずあなたの人生に確かな影響を与えることができるでしょう!



一般コース

ALPSコース

CMPコース

賛美礼拝コース

- 聖霊の臨在を重視する校風
- 賛美による礼拝の時を毎朝(本職を除く)
- 情熱をもって教える講師陣
- 実践的な選択課目や実習授業
- 教派を超えて互いを尊重しあう
- 聖潔を重んじる

無料 体験入学実施中!

平常授業の3日間

●3泊4日の宿泊料、授業料、食事代が無料になります。
(2学期:9/6~12/3 ・3学期:1/11~3/4)



学院案内パンフレットをお申し込みください!

北海道内 **3チーム** アウトリーチレポート!



■2010年7月、今年も夏のアウトリーチを行いました!旭川・帯広・函館・森と広い北海道を、福音を携え御言葉を宣べ伝える為に3つのチームに分かれて出発しました。旅から戻りどのチームも、行く前の想像を超えて遙かにすばらしいイエス様の恵みに、出て行くなら必ず主が助け働いて下さる事を体験するすばらしい時を持つことが出来ました!チームを快く受け入れお世話してくださった全ての教会に心からの感謝を申し上げます。

道央地区、旭川

■今回の旭川アウトリーチではチーム全員、御霊のジェットコースターに乗ったような疾走感あふれるものでした。訪問させていただいた「旭川 神居キリスト教会」では、教会バザーに70人以上の子供達が集まり、福音を語り、またユースキャンプでは賛美やメッセージを通して、「あなたは神様に創られた大切な人」ということを伝えられました。宣教は自分たちの力ではなく、主がその御手でなさることもはっきり覚える事ができ、得難い経験になったと思います。ハレルヤ!



●旭川神居キリスト教会での記念写真



●教会バザーでのひとこま

道東地区、帯広

■道東(帯広)アウトリーチチームは、ヨハネ9章4節、5節の御言葉を中心に始めました。私達のチームは、「十勝リバイバル教会」と「帯広キリスト福音教会」で奉仕させていただきました。十勝リバイバル教会ではこの地においても多くの実が結ばれる事を願いつつ近隣にパワーフォーリビングの本、約70冊を配布することが出来ました。又、帯広キリスト福音教会では、賛美と証し、タンバリンなど、それぞれの賜物をいかした奉仕と礼拝の時、又、交わりの時を持つ事ができました。広大な帯広という地にキリストの教会が高く掲げられ、その御名が全地に伝えられる事を切に願ったそのようなアウトリーチでした。最高のメンバーと一緒に奉仕させていただきます神様に感謝します!



●帯広キリスト福音教会の方々と記念写真

道南地区、函館・七飯・森

■2010年7月23日私たちは道南へ向けて車を走らせました。この道南のアウトリーチは私達にとり、とても素晴らしい体験となりました。今回はYFNのゲストであるジャレッド師も同行してください。函館の近くの森町にある「森福音キリスト教会」「七飯シオン教会」、そして、函館の「函館シオン教会」の3つの教会に訪問させていただきました。奉仕させて頂いたどの教会でも大変歓迎して頂き、またその一つ一つの奉仕にやりがいと確かな主の導きと助けを感じ、「神はすべてを時宜にかなうように造り」伝道者の書3章11節(新共同訳)というみことばを体験として受け取ることが出来、全ての場所での主の臨在を感じる素晴らしい体験をする事が出来ました。



●森町にあるグリーンヒルチャペルの子供達



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP:www.cfnj.com 郵便振替:02780-4-4688
●e-mail:office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

